

2020年6月7日

ともに暮らす家を保つ

今日は三位一体の祭日です。父と子と聖霊における愛の交わりをとおして、コロナ時代の新しい隣人愛の実践について黙想することができます。さらに今日では人間社会だけでなく、地球に住むすべての造られたものに対して、神の愛と隣人愛を広げていくことが求められています。先日、教皇フランシスコは、環境についての回勅『ラウダート・シ』—ともに暮らす家を大切に—の発表から5年を記念して、2020年5月24日から2021年5月24日までの1年間を「ラウダート・シ特別年」とすることを決めました。「ともに暮らす家である地球と、もっとも弱い立場にある兄弟姉妹を大切にするために力を合わせるよう」呼びかけておられます。

(<https://www.cbcj.catholic.jp/2020/05/29/20797/>)

「神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。」（ヨハネ3・17）

近年、世界各地で自然災害や気候変動、地震の被害等が相次いでいます。そして今年には新型コロナウイルスの世界的大流行です。このような自然の猛威にさらされる時、これは神さまの裁きなのではないか、と考える方もおられるかもしれません。しかし今日のヨハネ福音書が明確に宣言していることは、神の意志は「救い」にあるということです。聖パウロも「神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます」（テモテ1・4）と指摘します。たとえ、わたしたちの世界の中に「光よりも闇を好んだ」（ヨハネ3・19）という厳しい現実があったとしても、キリストの弟子に求められていることは、独り子を「信じる」（ヨハネ1・18）ことであり、「キリストの平和—シャローム—」（平和、無事、完全、健全であること）を保つことです。

「兄弟たち、喜びなさい。完全な者になりなさい。励まし合いなさい。思いを一つにしなさい。平和を保ちなさい。」（二コリ13・11）

三位一体の祭日にあたり、この地上に生きるすべての人びとと美しい自然や植物、動物も含めて「一つの家族であるという自覚」（『ラウダート・シ』52項）を深めることができますように、祈りたいと思います。

ラウダート・シ 特別年の祈り

いつくしみ深い神、
天地万物の造り主よ、
わたしたちの思いを解き放ち、心に触れてください。
あなたのたまものである被造物の一員でいられますように。

この過酷な日々の中で苦しんでいる人、
とくにもっとも貧しい人と弱い立場にある人に寄り添ってください。
感染症の世界的流行に立ち向かう中で、
創造的な連帯を示すことができるよう支えてください。
共通善を探し求めるために、
変化を受け入れる勇気をお与えください。
皆が互いに結ばれ、支え合っていることを
今ほど感じられるときはありません。

地球と貧しい人々の叫びに耳を傾け、
応えられるようにしてください。
今のこの苦しみが、
兄弟愛にあふれ、持続可能な世界を築くための産みの苦しみとなりますように。

扶助者聖マリアの優しいまなざしのもと、
わたしたちの主キリストによって祈ります。
アーメン。

カトリック立川教会 主任司祭
東京教区 ヨゼフ 門間 直輝